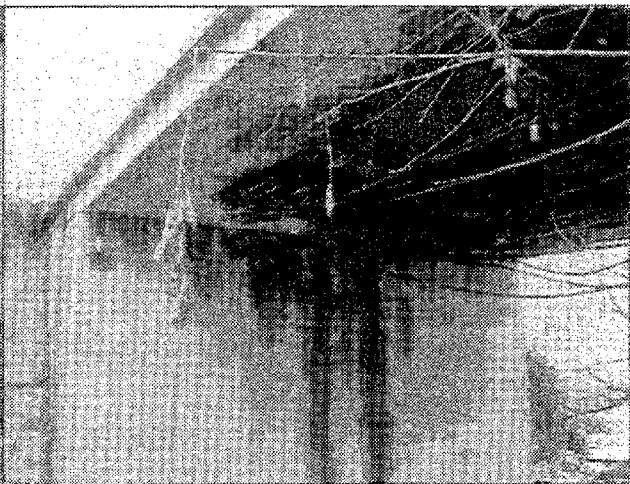
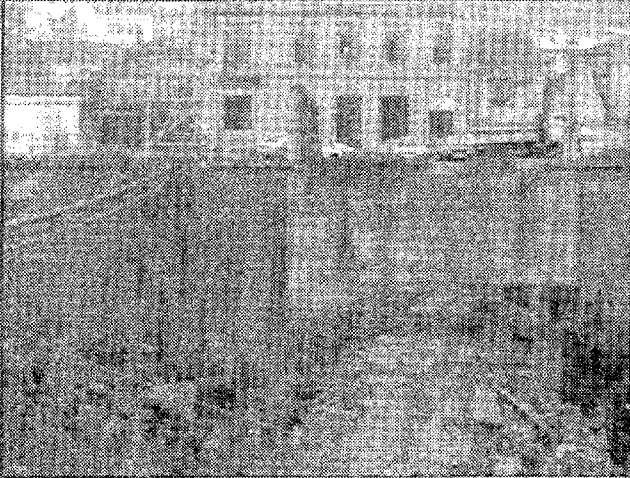
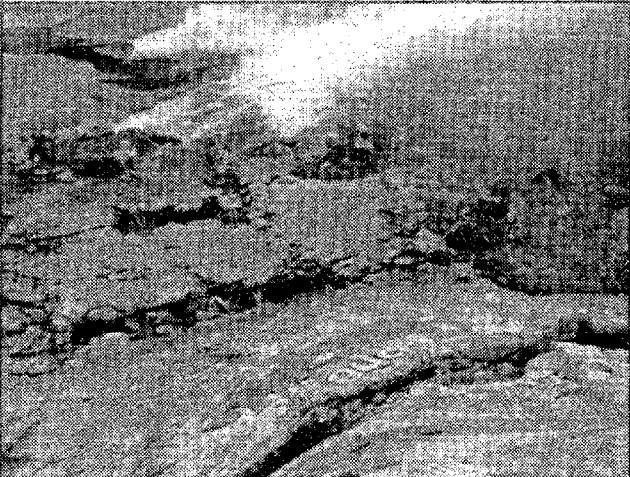
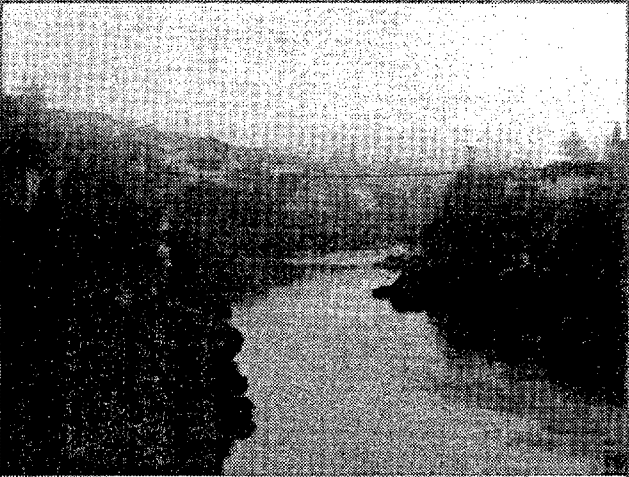
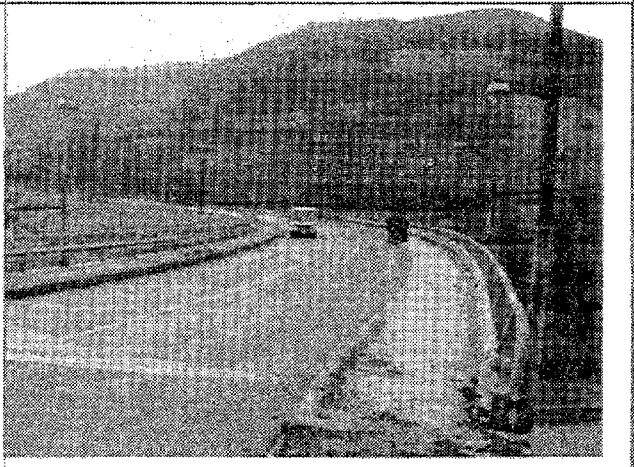
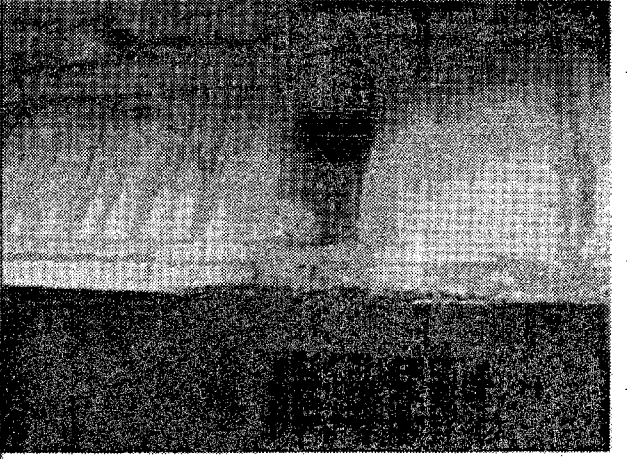
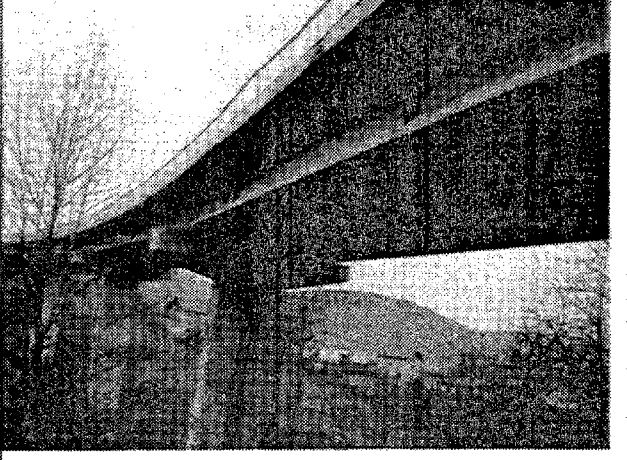
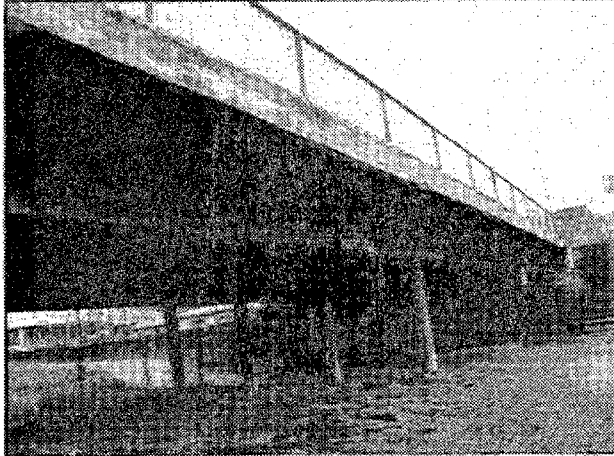
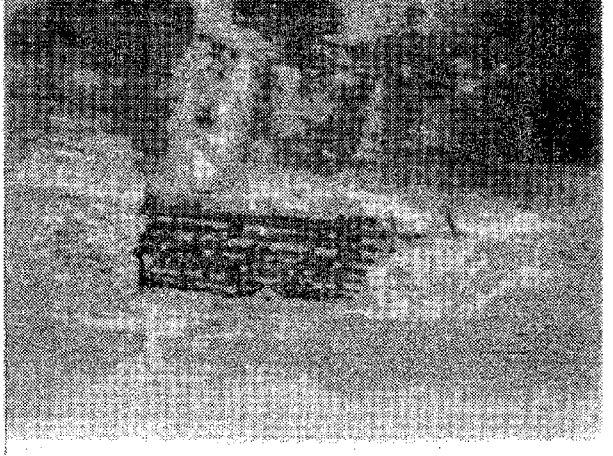
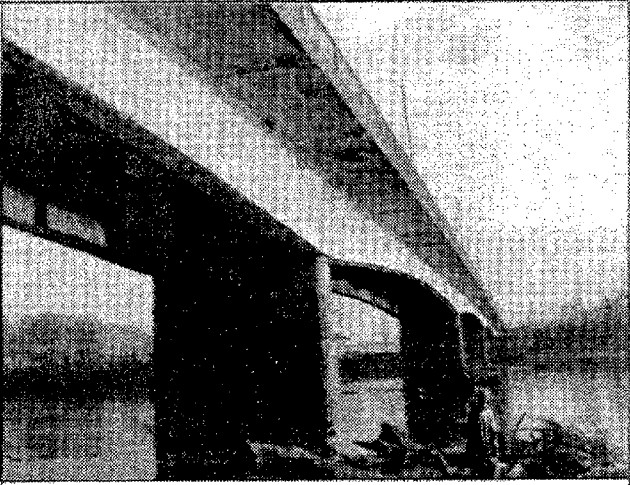
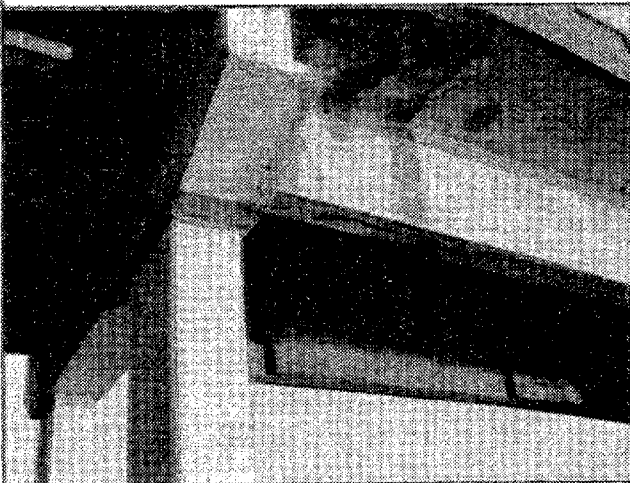
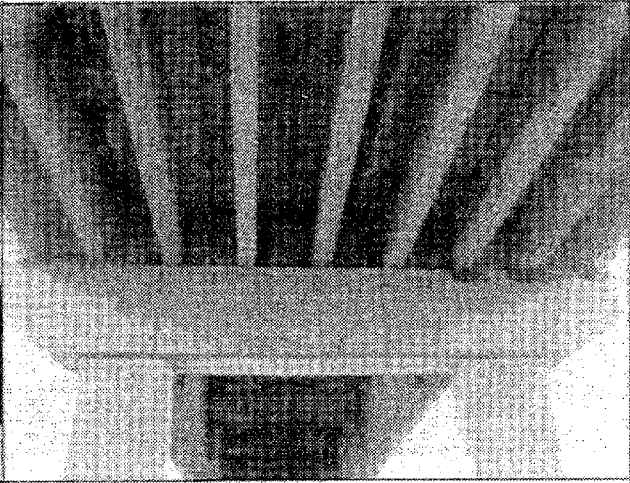
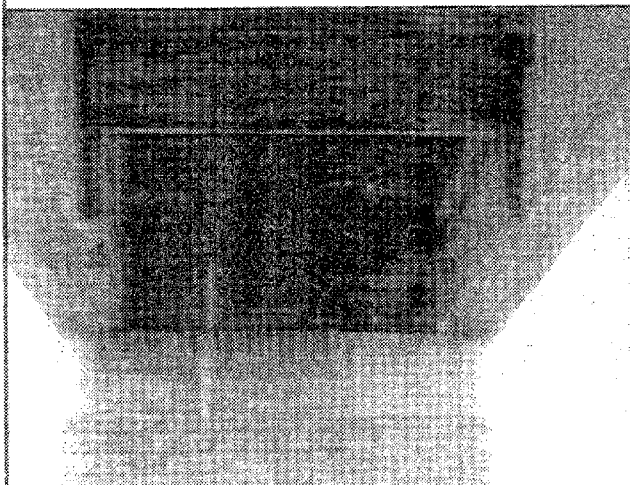
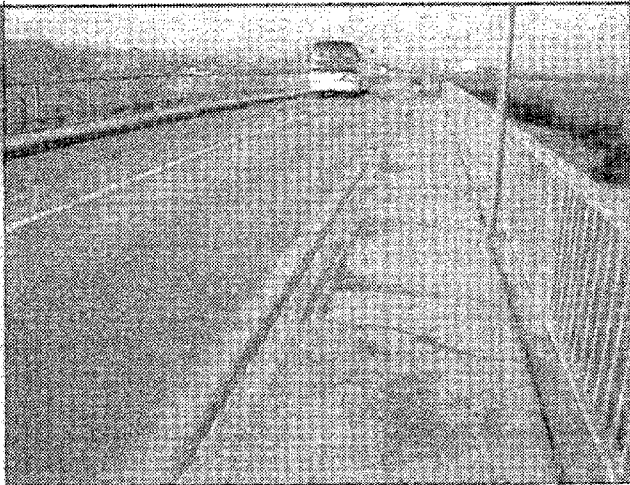


橋梁番号	FD-13	橋梁名	ブッコビツァ橋
			
橋長 8 m 程度の RC 床版橋。	床版上で爆発があり、大破した。		
コンクリートは抜け落ち、鉄筋が垂れ下がっている。	破損した橋梁上には H 鋼で造った仮橋が架けられている。		
橋台側面に大きな亀裂が入っている。	通行量が多い道路で、すれ違いの車が並ぶことがある。		

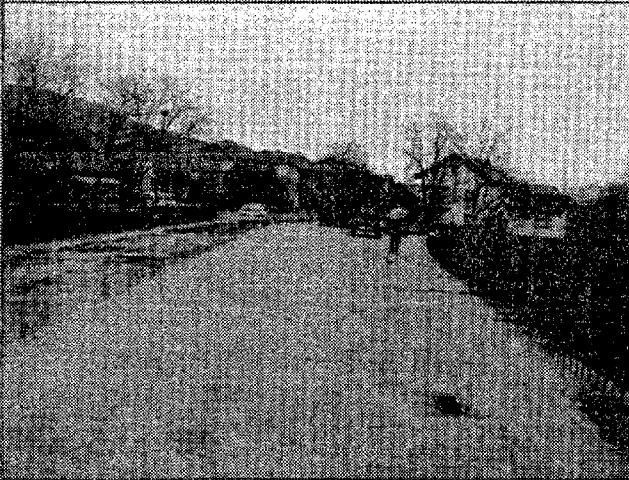
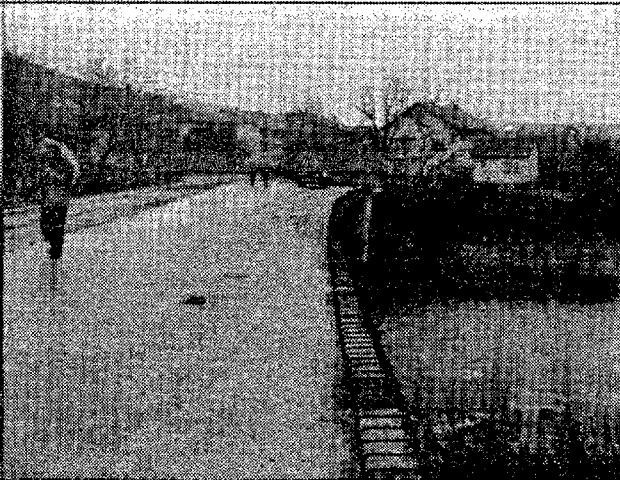
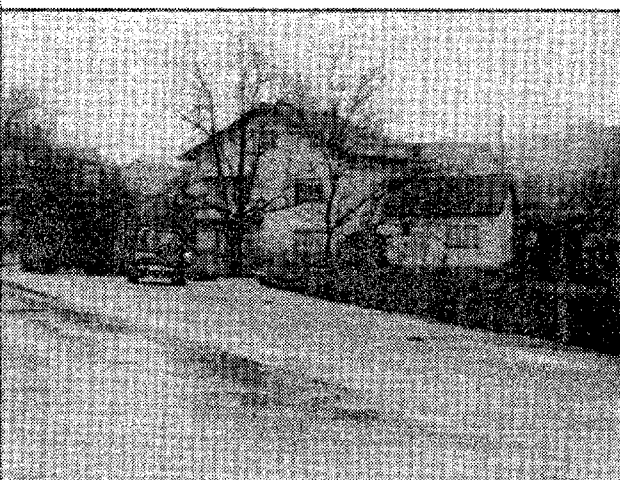
橋梁番号	FD-14	橋梁名	ルチキ橋
			
対岸側の橋台の状況		落橋位置の接続道路	
			
落橋し河川に落ちた橋体の残骸。		上流から見た吊り橋の横の架設位置。	
			
落橋のため袋小路となっている接続道路。			

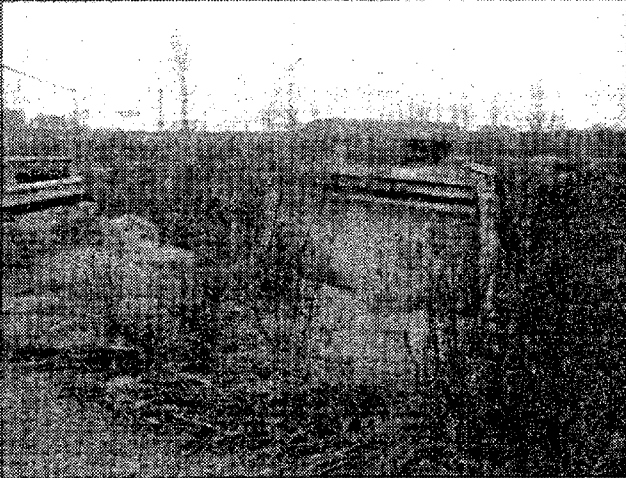
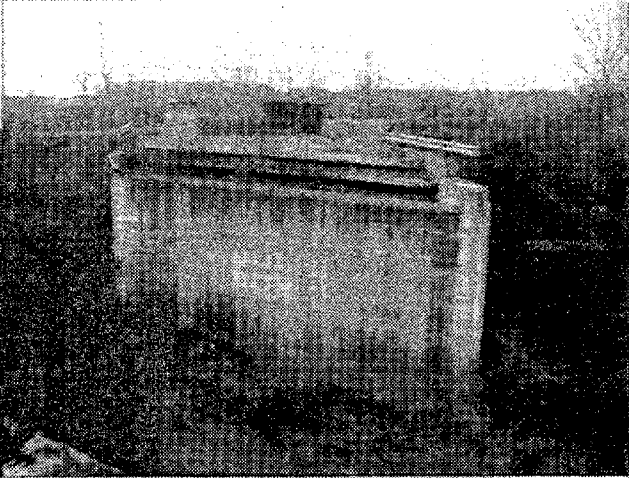
橋梁番号	RS-01	橋梁名	マルコニッチ 4 橋
			
床版コンクリートが抜け落ちた No.2 橋			No.2 橋の橋面。舗装がひび割れ、部分的な補修が繰り返されている。
			
No.3 橋の主桁排水装置付近の主桁。コンクリートが剥がれ落ち、鉄筋の腐食も進んでいる。			No.3 橋の橋台付近。伸縮装置からの漏水で、床版コンクリートが剥がれ落ちている。
			
No.4 橋の主桁、橋脚には、大きな損傷は見受けられない。			No.4 橋の橋台。伸縮装置部からの漏水により、コンクリートがぼろぼろと落ちるほど劣化している。

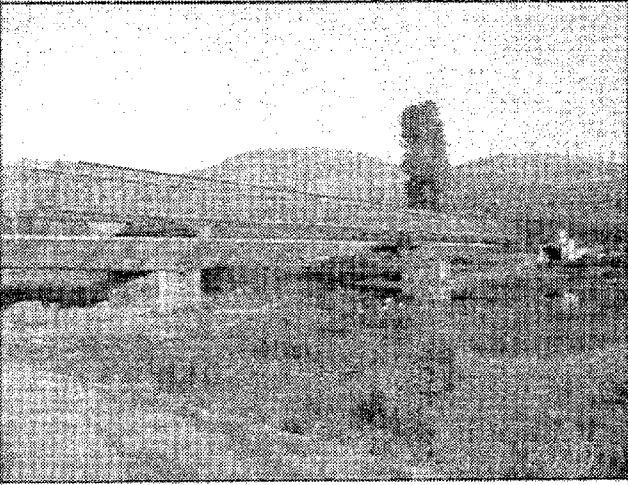
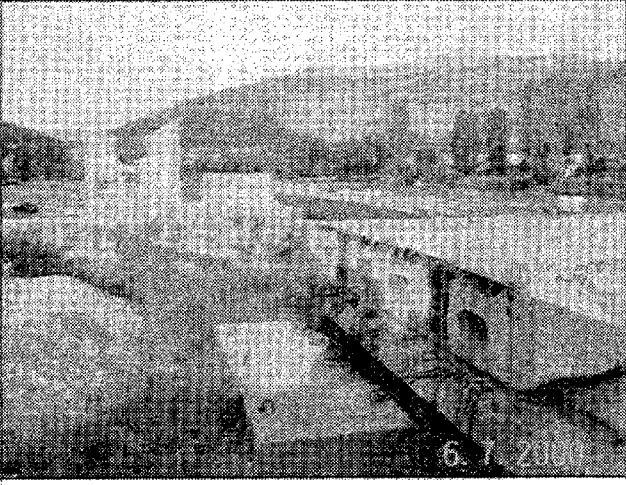
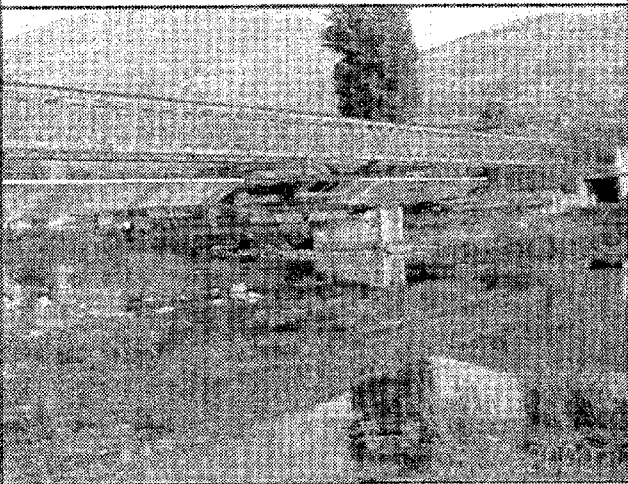
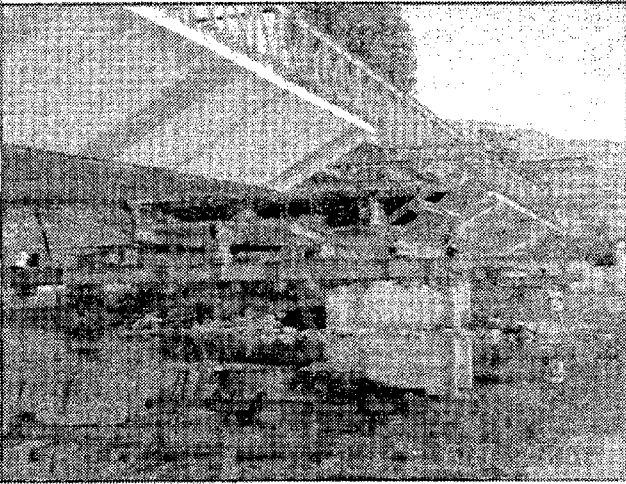
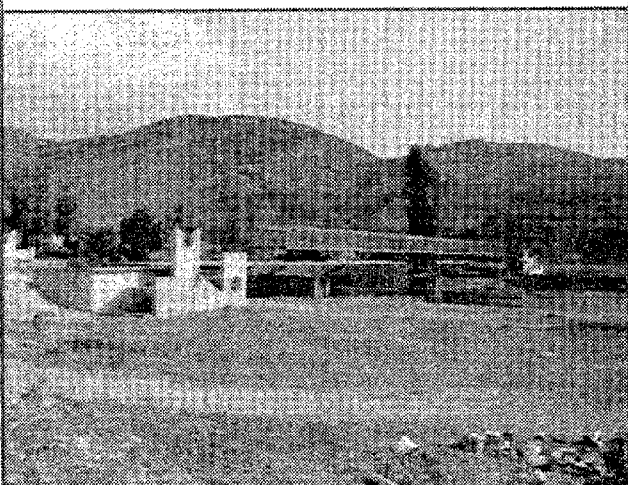
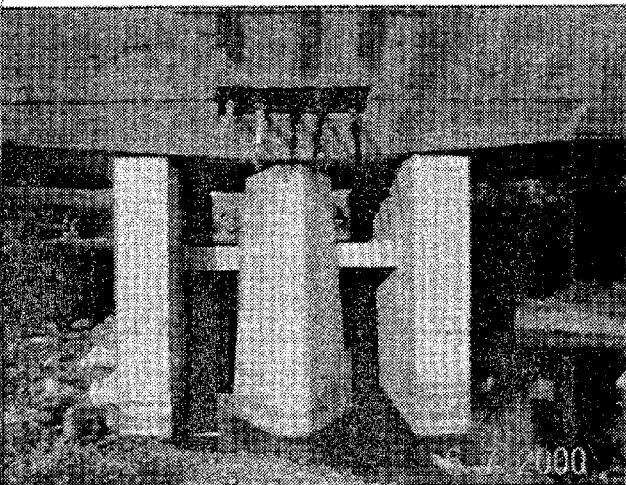
橋梁番号	RS-02	橋梁名	ドボイ橋
			
5 径間連続RC変断面桁橋と7 径間連続4 主版桁橋からなる橋で老朽化している。		舗装はクラックが見られ、歩道部のコンクリート版はほとんどが破損している。	
			
河川部の連続桁橋。橋台のコンクリートは横縞状に剥離しているところがある。		床版は漏水、クラック、遊離石灰が見られる。主桁も一部コンクリートの欠け落ちが見られる。	
			
陸上部の橋梁は、主版と剛構造の橋脚は非常に細いが、脚柱には損傷は見受けられない。		床版、主桁ともクラックが見られ、部分的にコンクリートが剥離し、露出した鉄筋の腐食も見られる。	

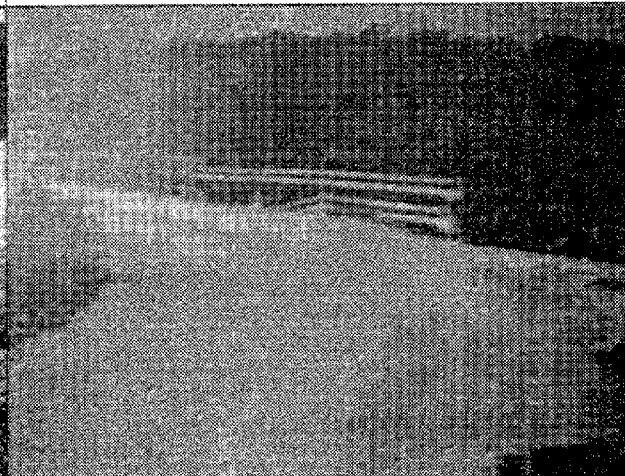
橋梁番号	RS-03	橋梁名	モドリッチャ橋
			
5 径間連続のRC変断面橋であったが、側径間が被弾したため、途中で切り、橋脚を新設しつないだ。			床版にクラック、錆びが見られる。橋脚は特に異常は見られない。
			
新設橋脚とRC 2主桁の旧桁部。床版にクラック、漏水が見られる。			新設された主桁部。9主桁のRC単純桁となっている。異常は見られない。
			
床版に多くのクラックが見受けられる。主桁は厚さ的にも断面変化させている。			車交通が通ると激しく振動をする。歩道部コンクリート、車道舗装に多くのクラックが見られる。

橋梁番号	RS-04	橋梁名	プレニャーボル2橋
		伸縮装置から漏水及び排水管からの水により、コンクリートが劣化。また、表面の色が変色している。	
		コンクリートが剥離し、露出した鉄筋が腐食。	

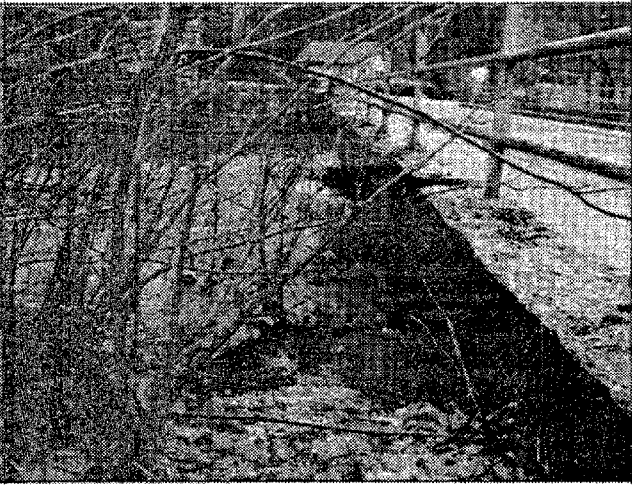
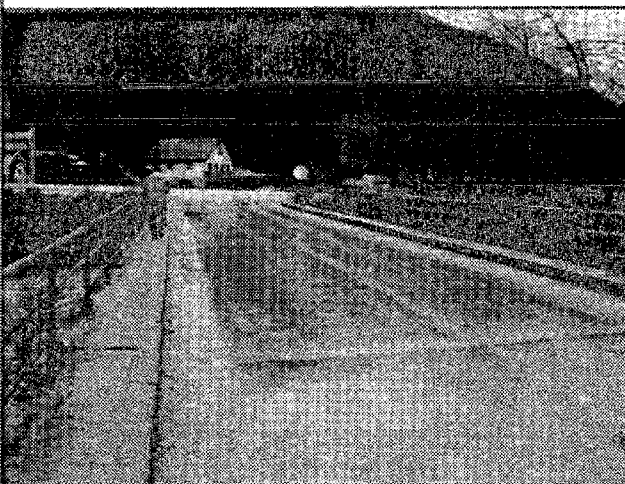
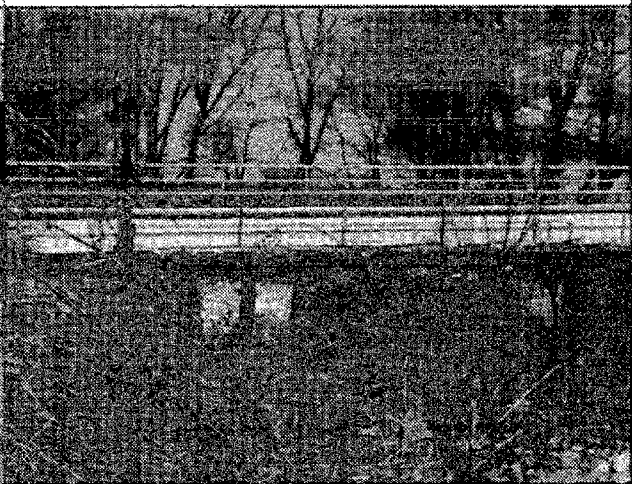
橋梁番号	RS-05	橋梁名	ブルバニャ橋
			
拡幅した床版部。歩道、地覆が未施工。			放置された地覆の鉄筋の腐食が進んでいる。
			
橋台ウイングの施工は完了しているが、裏込め、道路のすり付けが行われていない。			既設側橋梁。4径間の連続桁で、壁式橋脚が使用されている。
			
拡幅側の橋脚は新旧一体構造としている。			A 2 橋台の拡幅側の延長上にある民家。橋梁前後の道路拡幅は行われていない。

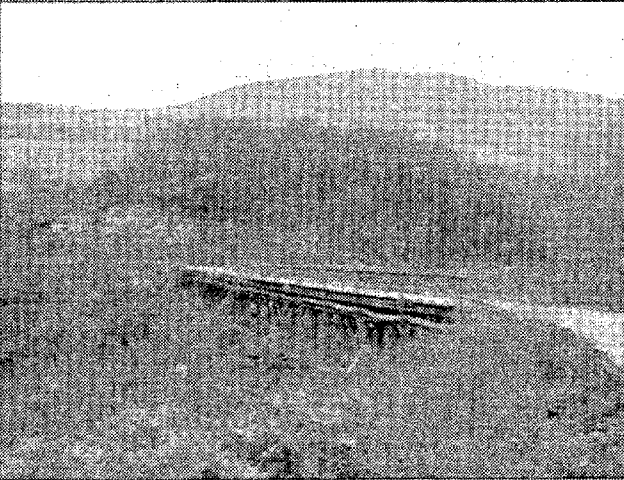
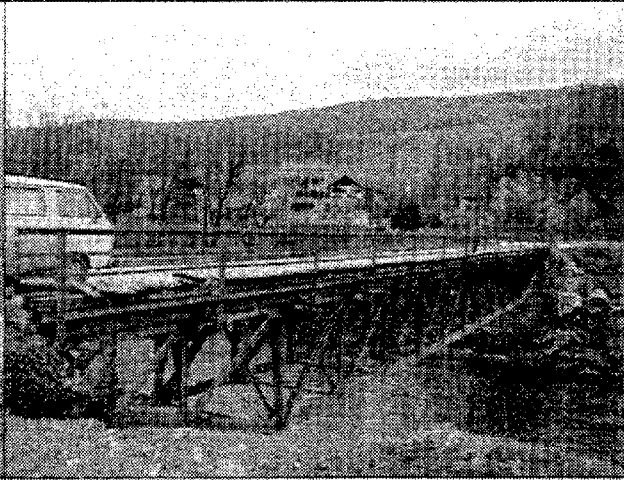
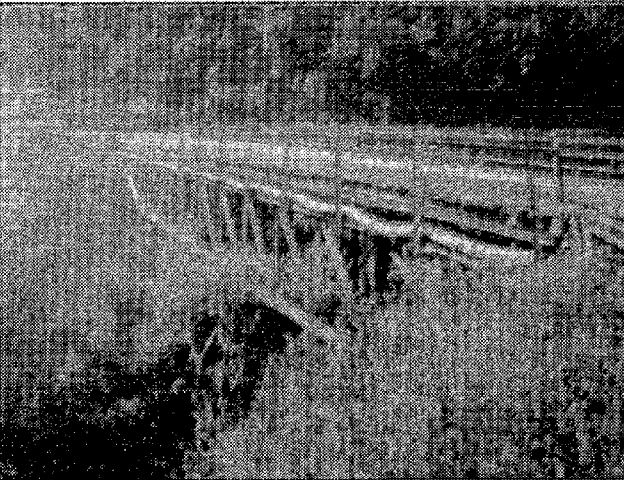
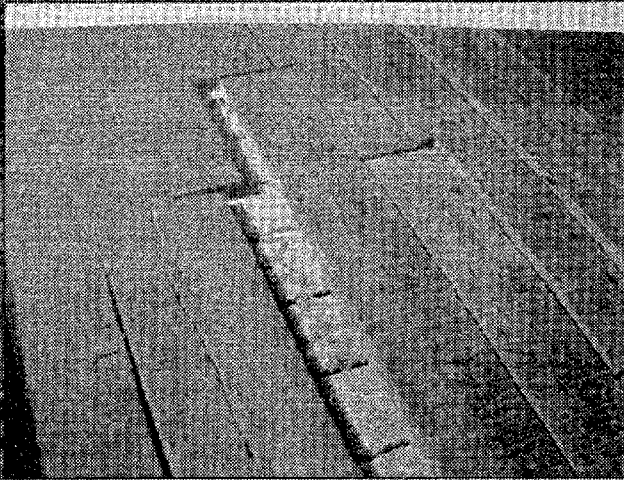
橋梁番号	RS-06	橋梁名	クラカル橋
			
落橋した上部工は既に撤去されていた。		橋台はほとんど無傷で、劣化もなく健全である。	
			
橋台立て壁背面の裏込土が沈下している。		橋台背面の道路は劣化し、ひび割れたところから雑草が伸びてきている。	
			
橋台間で河川に堰が設けられている。		約30m上流に設置された迂回路のベイリー橋。	

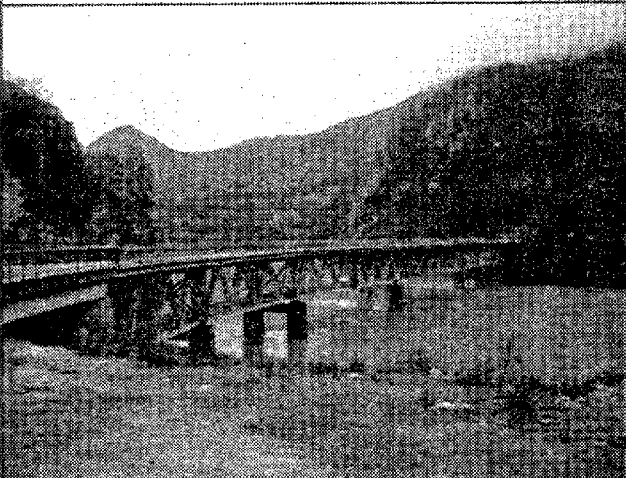
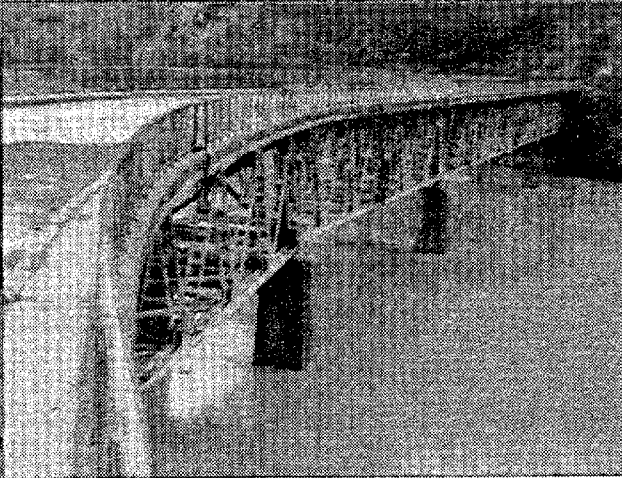
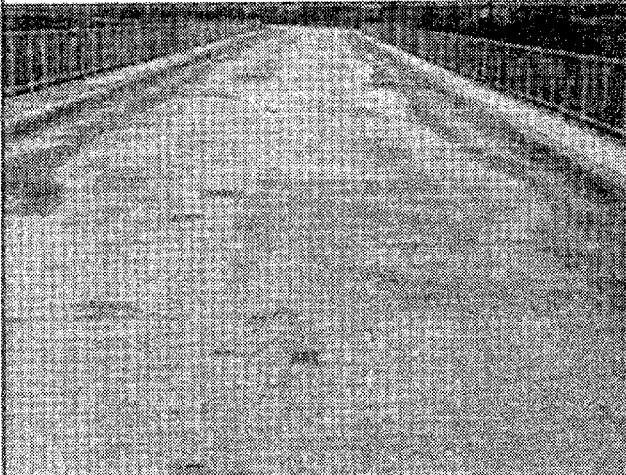
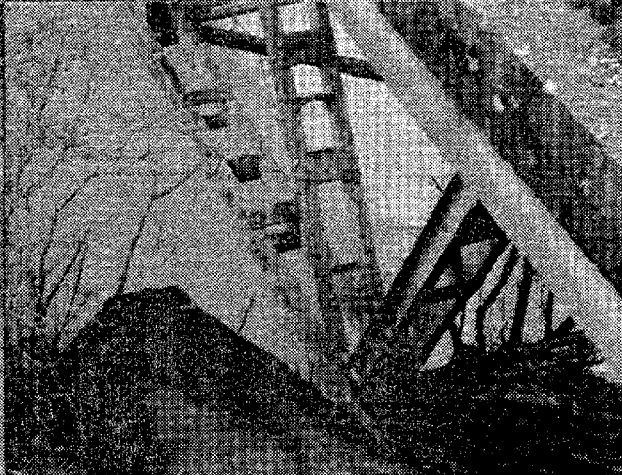
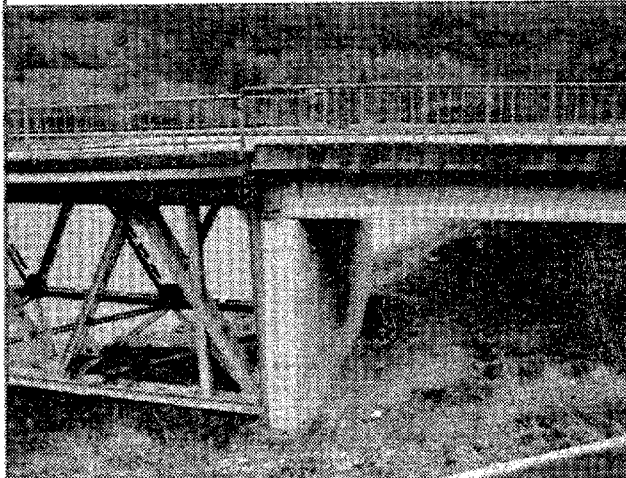
橋梁番号	RS-07	橋梁名	テレビィネ4橋
			
大型ガーターを用いた、補助桁方式による片持架設工法にてP C連続箱桁橋の架設。			建設途中で放置された主桁。鉄筋の腐食、コンクリートの剥離が見られる。
			
放置されたままの架設桁および型枠材。			吊り下げられた状態のままの型枠材
			
橋梁前後のアプローチ道路は未着手である。			中間支点上のP C鋼材。長期放置により、P C鋼材の腐食も懸念される

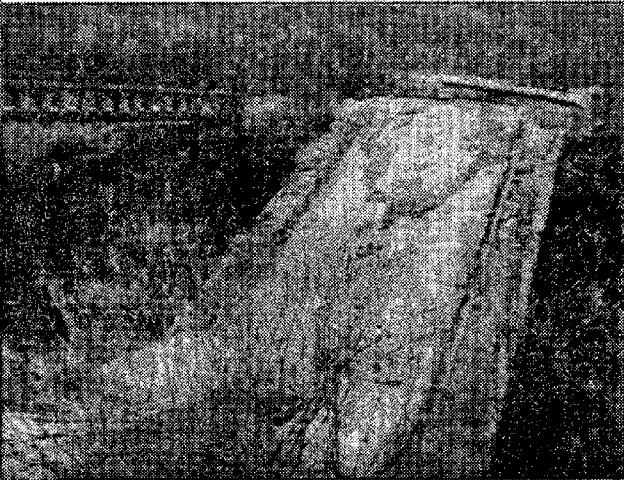
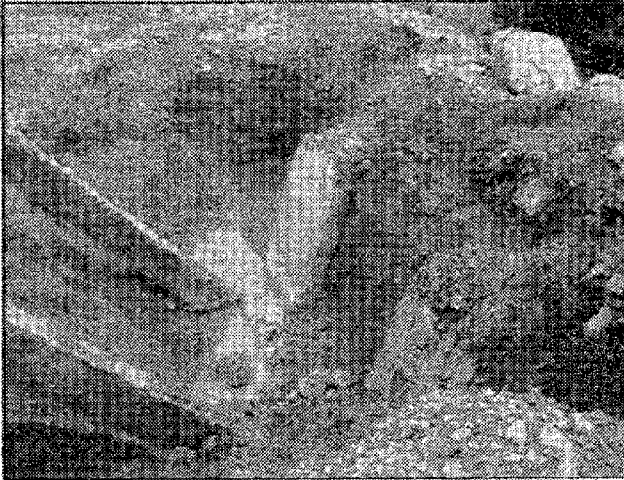
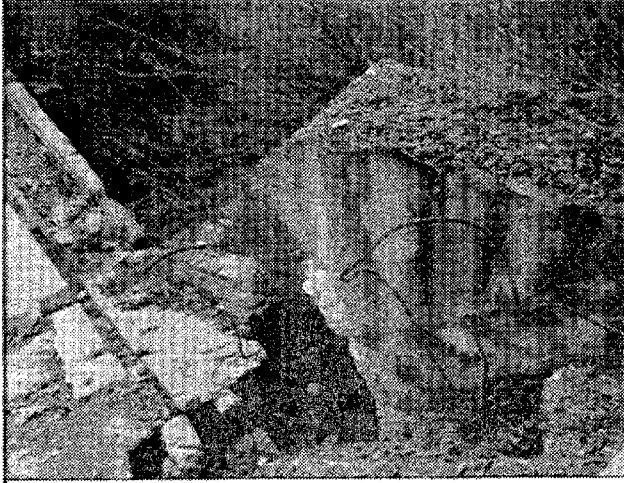
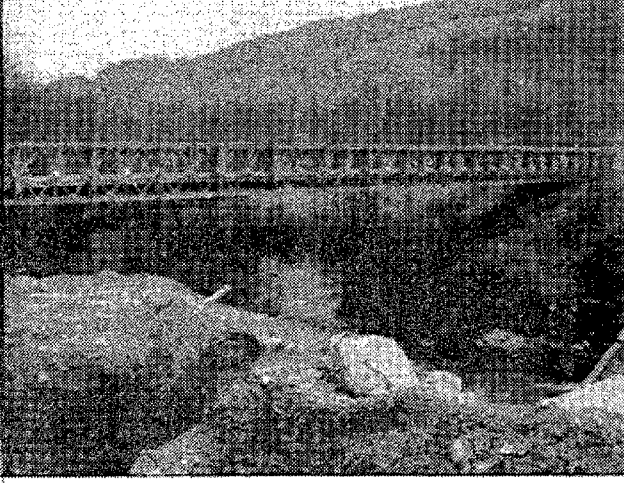
橋梁番号	RS-08	橋梁名	ゴールニャ橋
			
橋面を砂利道からアスファルト舗装に変更する補修工事が行われている。	排水孔付近の主桁コンクリートに劣化が見られる。		
			
橋台の堅壁及びウィングの補修が行われている。	床版には防水工が行われている。		
			
改修前の状況。橋台、床版コンクリートの劣化が見られる。	改修前の状況。橋梁上も砂利道で、橋台背面で道が直角に曲がっている。		

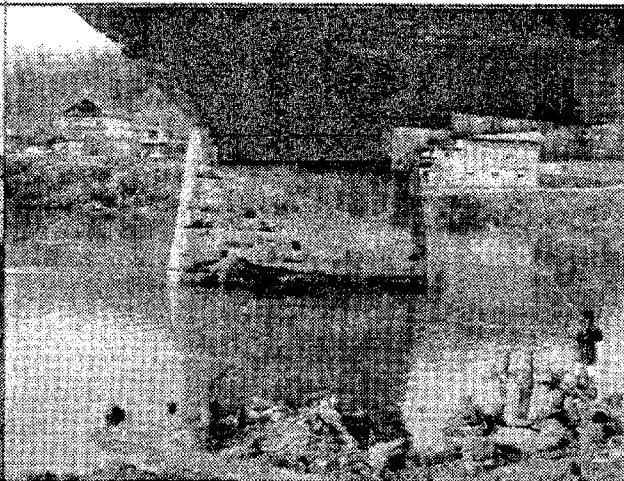
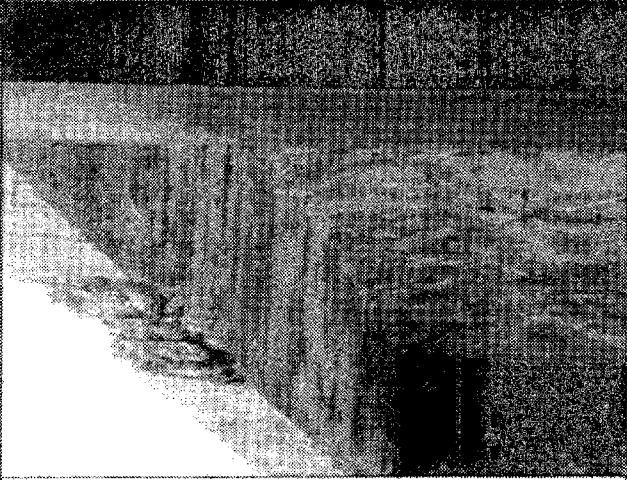
橋梁番号	RS-09	橋梁名	セロペック橋
写真なし。			

橋梁番号	RS-10	橋梁名	モクランニスカ橋
			
7 mの支間長と短い4 径間連続のRC床版橋であり、河川の流れを阻害している。		地覆コンクリートの劣化が、欠け落ちが見られる。	
			
舗装はクラックが見られる。伸縮装置は設置されておらず、舗装がそのままかけられている。		橋脚の中間に仮支柱により床版が支えられている。	
			
地覆コンクリートが朽ち落ち、鉄筋と高欄支柱が露出し、腐食している。		床版下側のコンクリートの劣化が激しく、鉄筋が露出している。	

橋梁番号	RS-11	橋梁名	ベルバース橋
			
1950 年に造られた橋長 5 6 m の上路式トラス橋である。		リベット接合による部材が細い。部材全体に錆の発生がみられる。	
			
高欄は手すり程度の強度しかなく、一部損傷もあり危険である。		床組には木材が用いられており、重交通により部分的に損傷がひどいところがある。	

橋梁番号	RS-12	橋梁名	ウースティプラチャ橋
			
単純トラス橋 5 連と単純 R C 桁からなる曲線橋である。		橋脚上で桁の不連続が見られる。	
			
アスファルト舗装は亀裂が多く見られ、剥がれも見られる。		トラス部材には錆が見られるが、断面欠損までは至っていない。	
			
旧橋台は縦壁が損傷し橋脚に造り替えられ、R C 桁により 1 径間延ばされた。		床版の不連続、劣化が見られる。	

橋梁番号	RS-13	橋梁名	ポノール橋
			
落橋した橋梁。		上部工が折れ曲がっている。	
			
V型橋脚が使用され、橋脚背面から法面が構築される構造で橋台はない。		橋台位置に相当する、コンクリート版だけが取り残されている。	
			
橋台部ウイングウォールの残骸。		迂回路として下流側に設置されたベイリー橋の仮橋。	

橋梁番号	RS-14	橋梁名	クラシニツェ橋
		RC 3径間連続桁橋で、中間の橋脚と剛結構造となっており、老朽化が激しい。	橋脚の老朽化がひどく、コンクリート部に剥がれや穴が生じている。
		床版コンクリートにはクラック、遊離石灰が見られる。	2主桁構造であり、主桁コンクリートの剥がれ露出した鉄器も腐食が進んでいる。
		床版、主桁ともクラックが見られ、コンクリートが剥がれ落ち危険な状況である、	橋台コンクリートも伸縮装置からの漏水で劣化している。